

被害者の視点を忘れずに

「産科医療」の 事故・裁判・質・システム を考えるシンポジウム

日時：2007年4月28日(土) 午後 13:30 ~ 16:45

場所：エル大阪(大阪府立労働センター)6階大会議室

(京阪電車または地下鉄谷町線「天満橋駅」下車、西へ徒歩約5分。 06-6942-0001)

<第1部> 注目を集める事件の真相を語る ―

陣痛促進剤事故を繰り返すリピーター医師

出元明美さん(「陣痛促進剤による被害を考える会」代表)

横浜市堀病院の母体死亡事故

吉野克則さん(被害者遺族)

奈良県大淀町立病院の母体死亡事故

高崎晋輔さん高崎憲治さん(被害者遺族)

福島県立大野病院の母体死亡事故

鳥集 徹さん(ジャーナリスト)

金沢大学医学部産婦人科の無断臨床試験裁判

打出喜義さん(「金沢大学病院 産婦人科」医師)

<第2部> パネル・ディスカッション ―

被害を繰り返さないための産科医療改革運動20年の意味と今後を考える

本年2月で「陣痛促進剤による被害を考える会」は、その活動が20年目に入りました。この間、産科医療の被害者たちによって数多くの裁判や行政交渉・市民運動等が行われてきました。それらの歴史を振り返ることで現状の産科医療の実態を正しく把握し、今後のあり方を提言します。第1部の講演者の他、医療事故や医療裁判に詳しい石川寛俊弁護士、数々の被害者運動を支えてきた「医療情報の公開・開示を求める市民の会」世話人の岡本隆吉さんらも加わり、会場の皆さんと共に議論をします。【司会：勝村久司(主催両会世話人)】

予約不要で、どなた様でもご自由にご参加頂けます。(会場定員200名)
参加費：1000円(資料代込)、お問い合わせ等は下記主催団体事務局まで。

主催：「医療情報の公開・開示を求める市民の会」
()090-7485-2591 (ホムペ-ジ) <http://homepage1.nifty.com/hkr/simin/>

主催：「陣痛促進剤による被害を考える会」
()0898-34-3140 (ホムペ-ジ) <http://homepage1.nifty.com/hkr/higai/>